

安全対策委員会を発足し活動

安比高原スキー場

安比高原スキー場ではスノーボード全面解放を実施し、二年が経過しようとしています。ボーダーの入場者も昨シーズン、全体の8%~10%でありましたが、今シーズンは15%~17%と年々増加しております。また、ケガについても件数ではスキーヤーより少ないものの、事故発生率で比較しますと数倍高い数字になっているのが現状です。

これらのデータをもとにゲレンデに限らず、また、スキーヤー・ボーダーに限らずスキー場全体に視野を広げケガの原因となる情報を収集し、事故防止に取り組む「安全対策委員会」を発足し

ルール・マナーの注意文

ゴンドラ搬器内へ掲示

PATO

岩手県

連絡協

NO14

県本部理事、小原隆雄

社内全体で活動しています。

主な活動内容としてはルール・マナー及び注意文や正しい転び方を記載したチラシ数百枚作成し（英文含む）宿泊施設への配布、ゴンドラ搬器内をはじめとする施設内

☆◆☆☆◆☆☆◆☆☆◆☆☆◆☆☆◆☆☆◆☆☆◆☆☆◆

1997年度（36期）

SAJ公認スキーパトロール合格者

氏名	年齢	所属
及川 和也	58	一関市
小岩 正治	50	国見平
田代 達也	45	国見平
鹿糠 律子	40	八幡平
鈴木 幸一	39	岩手山
武田 良治	38	夏油
長谷川 信之	36	八幡平
佐々木 由美子	32	真衣川
辰巳 浩輝	29	衣川
外崎 勝彦	25	零安
長坂 潤	23	

（入）を要して

安比高原スキー場

盛岡市・鈴木幸一

◆受験の動機

昨シーズンのこと、スキー学校で五、六才の子供六人を指導していた時、その中の一人が転倒した際にスネを打ったらしく、痛がつて顔をしかめていた。その時にどうすれば良いか分からず、ケガをさせてしまった事で頭の中が真っ白になってしまい、近くにいた別の指導員と一緒にパトロール員室へ連れていくのがやっとだった。この時自分で判断し行動できなかった事がなさげな感じが、来年はきっとパトロール資格を取るぞという気持ちにさせたと思う。

◆養成・強化講習

「まず足慣らし」という講師の言葉でリフト乗り場までノンストップ。ここまでは良かったが、「足慣らしパートII」の声でブルークのまま同じコースを滑る。股関節が痛

強、練習して来たので心配はなかった。心配なのはポートの搬送技術だった。結局、講習会以外でのポートの練習は出来ずに本番に望んだため「講習会はうまくできて、いざ本番では」という思いでいっぱいだった。

しかし、そんなことを考える余裕も無く最一番白のまま気がついたらいざ合格して

まず自分の知識、技術を維持向上させる事を前提とした上で、パトロールとして活動していき

多発しているボーダー関連の事故防止のため、理解してもらええるルールやマナーを伝えるためにスノーボードの技術も身につけたい。

◆受験

学科やロープ、三角巾は自分の納得いくまで勉強

